

IORIGAWA FISHERMANS FEST

～浜と地域のつながり～

庵川漁協青壮年部
部長 安田 裕青

1. 地域の概要

門川町は、宮崎県沿岸の北部に位置する、海と山に囲まれた、人口約1万7,000人の小さな町である。門川町が面している門川湾は、魚種が豊富で、古くから水産業が盛んであり「魚のまちかどがわ」と呼ばれている。町内には、庵川漁協及び門川漁協の2つの漁協があり、地元の経済と魚食文化を支えている。

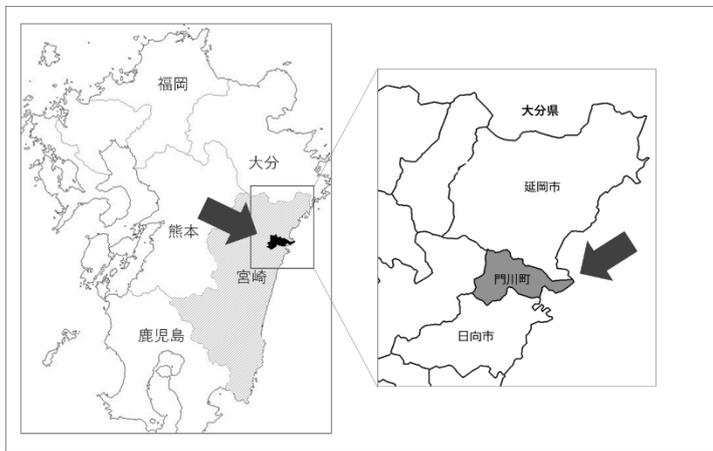


図1 門川町の位置

2. 漁業の概要

私たちが所属する庵川漁業協同組合は、組合員数約100人で、平成30年度の水揚げは約6億円であった。漁業種類ごとの水揚げ高は、52%をまぐろはえ縄漁業が占め、小型定置網14%、養殖12%、小型底引き網6%等となっている(図2)。漁業種類ごとの経営体数は、図3のようになっている。さまざまな漁業種類が行われている。まぐろはえ縄以外の水揚げは、ほとんどが庵川漁協地方卸売市場に水揚げされており、地元さまざまな魚種が水揚げされるのが特徴である。

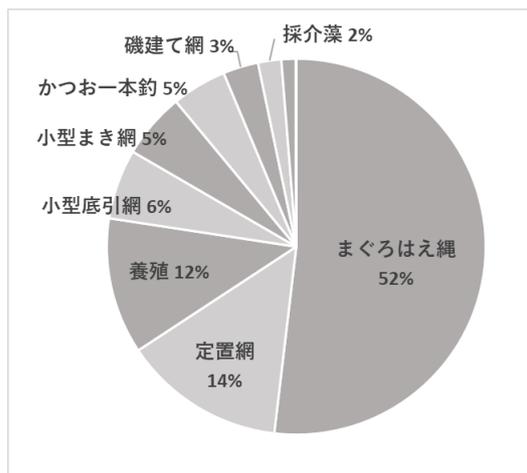


図2 庵川漁協の漁業種類別水揚高の割合

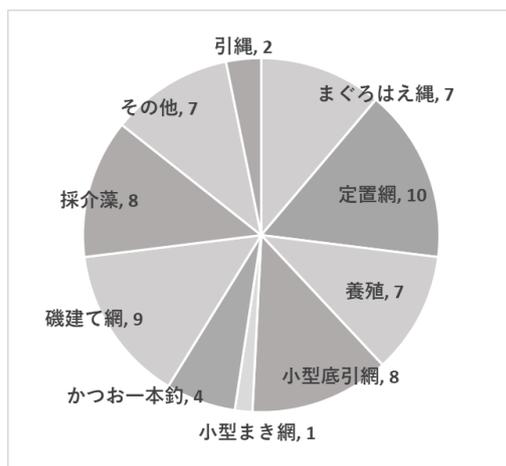


図3 庵川漁協の漁業種類別経営体数

3. 研究グループの組織と運営

庵川漁協青壮年部は、マグロはえ縄漁業、定置網漁業、養殖業、小型底引き網漁業等、さまざまな漁業種類の漁業者 20 人が所属しており、20～40 代の若い世代が、海浜清掃や地域おこしイベントへの参加等の活動を行っている。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

庵川漁協は、組合員数が平成20年には133人だったのが、平成30年には97人と、10年で約3割が減少している。また、60代以上が約4割となっており、漁業者数の減少に伴い、漁村の活気がなくなってしまうことが懸念されている。そのため、漁業者や地元の仲間と、後継者不足や高齢化の問題を解決するにはどうしたらいいか、何か「魚のまち」を盛り上げていく取組はできないかと考えていた。

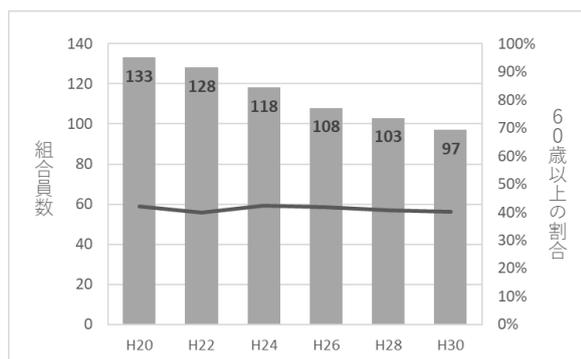


図4 庵川漁協組合員数の推移

そのような中、鹿児島県の甕島（こしきじま）で行われている「コシキフィッシャーマンズフェス」の存在を知り、現地視察を実施し、主催者の方にフェス実施に至った背景やコンセプト、イベント内容等を伺った。甕島でも庵川同様に後継者不足や流通の課題があり、それらを解決するための一つの手段としてイベントを開催していた。このような漁業者と消費者がつながる、顔が見えるイベントを漁業者が主体となり、実施していることにとっても感動し、庵川でも、甕島のような漁業者の顔が見えるイベント「イオリガワフィッシャーマンズフェス（以下IFFという）」を開催することを決意した。

5. 研究・実践活動の状況及び成果（または効果）

IFFは2018年3月に第1回、2019年3月に第2回を開催した。イベント内容は、セリの模擬体験を行うことができる「朝どれセリ市」、ハマチやマグロを振る舞う「さしみ無料配布」、漁協女性部や地元加工業者が出店する「うまいもの市場」、門川湾を船に乗って観光する「乙島クルーズ」、県内外のアーティストがライブを行う「ステージ音島」、一般公募によるデザインで大漁旗を作成する「大漁旗お披露目」、そして、目玉イベントである、

漁業者が目の前で豪快に魚を焼いて提供する「いお焼き屋台」と、庵川独自の取組で、お気に入りの漁業者に投票してもらう「推しメン漁師総選挙」である。

I F Fの開催にはさまざまな課題を解決する必要があった。まず、開催に向けての最初の課題は、多種多様なイベントを行うためのスタッフの確保であった。当初、I F Fを行いたいと話していたメンバーは少数であったため、準備や当日のスタッフが足りない状況であった。そこで、I F Fの目的や企画を地元の漁業者や若者を中心に説明し、協力を呼びかけた。その結果、多くの人の賛同が得られ、スタッフの確保という課題が解決できた。漁業者は、青壮年部だけでなく、年配の漁業者にも仕込み等に協力いただき、漁業者以外の水産関係、製造業、会社員等は屋台や焼き台の作成に協力してもらったほか、SNSでの情報発信等に協力していただいた。また、門川町外からも協力者が現れるなど、声掛けによる人のつながりで想像より多くのスタッフが集まったため、各スタッフの得意分野を生かした役割分担を行い、効率的に準備を行うことができた。

次の課題は、どうすればより多くの消費者が参加してくれるかであった。この課題を解決するために、これまで県内で行われている漁業関係のイベントでは、ほとんど使われることがなかったSNSを活用した。新たな挑戦ではあったが、スタッフの協力により、Facebookに準備の様子をリアルタイムで発信したり、推しメン総選挙に立候補した漁業者のインタビュー動画をYouTubeで配信するなど広く周知し、参加したいと思ってもらえるように工夫した。

また、開催には開催資金が必要であり、資金集めも課題であった。1年目は門川町の補助金を活用したが、2年目はクラウドファンディングを活用した。初めての取組で、うまくいくだろうか、達成できるだろうかと不安が大きかったが、イベントやSNSでの情報発信を行うことで、目標の100万円を達成し、開催資金を集めることができた。クラウドファンディングは、資金集め、イベント周知、参加者増加という成果を得ることができた。これは、漁業者には不慣れた作業であり、地元のスタッフの厚い尽力のたまものであった。また出資者の方々の熱いメッセージも聞くことができ、色々な人の思いを乗せたイベントになったと実感する瞬間であった。

I F F当日、「いお焼き屋台」では、漁業者と参加者が顔を合わせ、直接話ができることをコンセプトとしていたので、漁業者の顔がたくさんの人から見えるよう円形の屋台にした。また、口下手な漁業者や、漁業種類によっては魚の焼き方や貝のむき方に慣れていない漁業者がいたため、得意な漁業者とペアを組み、バランス良く対応するようにした。最初はお客さんと話すことに緊張していたが、今食べている魚がどこで、どのような



図5 いお焼き屋台

方法で漁獲されているのか、誰が獲ったものなのかについて話をしたり、漁業者がどんな仕事をしているのか、何が大変なのかなどを話したりすることができ、漁業者の魅力を直接伝えることができたと感じている。また、お客さんと仲良くなって、好きな魚の話をすることや、お客さんから飲み物をプレゼントされるなど、コンセプトどおりの内容とすることができた。

「推しメン漁師総選挙」では、消費者が各漁業者のことを深く知ってもらい、積極的に投票してもらえるように、開催前から漁業者の紹介動画をSNSで配信し、当日は選挙らしくポス

ターを設置した。漁業者は写真や動画を撮られるのは恥ずかしがり、「そんな柄じゃない」と言われることもあったが、なんとか説得したり、話をしている間に撮ったりすることで、選挙される漁業者を増やし、イベント内容の充実を図った。これらの工夫により、いお焼き屋台でお客さんと漁業者が選挙の話をきっかけに、対話が深まったと考える。

I F Fでは、「楽しい!」「庵川の魚はとてもおいしい!」「漁師さんのイメージが変わった!」といったお客さんの生の声を、漁業者が直接聞くことで、漁業者と消費者がつながるイベントとなったと実感している。

また、これまでの2回のフェスで約2,000人を超えるお客さんに来場してもらったことは、小さな漁協の大きな出来事だったと感じている。



図6 推しメン漁師総選挙ポスター

6. 波及効果

I F Fを行った効果は、まず「人とのつながり」ができたことだと考える。今まで漁業種類が違うため、話したことのなかった漁業者や、協力してくれた漁業者以外の人たちと交流が図られ、また、庵川の活性化という一つの目標に向かって協力したことで、地域全体のつながりが強くなったと感じている。

2つ目は「地域への貢献」である。いお焼き屋台でお客さんと話していたところ、門川町以外の各地からお客さんが来ており、「初めて庵川に遊びに来たよ」という感想もあったことから、庵川の知名度を上げることができたのではと感じている。

また、普段は市場へ水揚げをするだけの漁業者が、お客さんがおいしく魚を食べる姿を直接見ることや、楽しく会話をすることで、漁業のやる気が増した事も大きな成果である。



図7 スタッフの集合写真

7. 今後の課題や計画と問題点

これからの課題は、I F Fの魅力を上向きさせ、さらに庵川の魅力が伝わるイベントとすることだと考えている。庵川の魅力の一つは、多様な魚が水揚げされることであることから、今後、開催時期をずらし、提供できる魚の種類を変更するなどの工夫を行い、これまでに参加した消費者も、また来たいと思うようなイベントにしたいと思っている。

漁業者を取り巻く後継者不足などの問題が、I F Fの開催により、すぐに改善できるとは思わない。しかしながら、このような取組を一過性のもので終わらせず、継続して行わなければいけないと強く思っている。I F Fは、自分たちが獲った魚を自信を持って消費者に直接提供する貴重な機会であり、消費者の「おいしい」という反応が自分たちのやる気を上げてくれる大事な場所になった。今後も継続することで、消費者に庵川

の魚や漁業者の魅力を知ってもらい、庵川のファンを増加させることが、魚食普及や魚
価向上につながり、さらには、漁業就業希望者が増えるのではないかと考えている。

庵川漁協青壮年部では、今後もこのような地域活性化の活動を積極的に行っていきたい。